

2016年度本予算案を読む

発表日：2016年1月12日（火）

～成長・財政再建・少子高齢化対応の「三兎を追う難しさ」～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 星野 卓也
TEL:03-5221-4547

（要旨）

○2016年度本予算案において、一般会計の基礎的財政収支は▲10.8兆円と赤字幅は縮小。財政再建が着実に進んでいることが確認される一方、歳出抑制の必要性もあり「一億総活躍」を目指して打ち出された政策メニューはインパクトを欠く。財政再建の進捗が確認されたことは前向きに捉えて良いが、経済成長・財政再建・少子高齢化対策を同時に進めることを求められている日本にとって、財政政策の舵取りが非常に難しいことも浮き彫りとなった予算案である。

○今回の予算案では国債費の算出に用いる10年債利回りの前提値を1.8%→1.6%へ引き下げている。それでも市場金利の実勢との乖離は大きく、例年通り国債費の不用額が1～2兆円程度発生することが予想される。税金についても見込みからの上振れが予想され、これらの浮いた金額は例年通り今年の秋ごろの2016年度補正予算の財源に充当されるとみている。

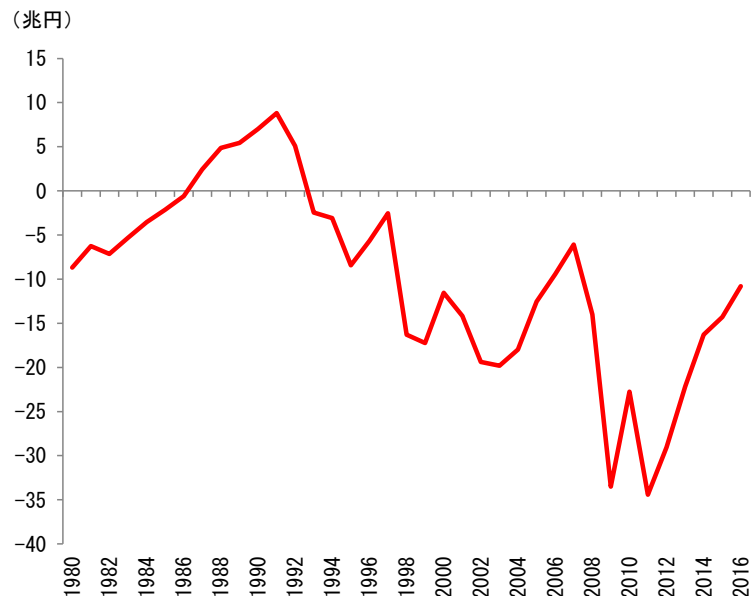
○財政再建が着実に進む

昨年末に2016年度本予算案が閣議決定された。まず注目すべきは財政再建の進捗度を確認するうえでの基礎的財政収支の状況である。一般会計の

基礎的収支は▲10.8兆円と赤字幅が縮小する形となっている（資料1）。消費税率の引き上げや家計・企業所得の増加に伴う法人、所得税の増加などを背景に、税金は明確な増加傾向をみせており、収支の改善に寄与している。また、歳出側の政策経費についても、73.1兆円

（2015当初72.9兆円、補正を反映すると77.6兆円）と、社会保障費の増加が続く中で歳出の増加も抑え込まれている。当初時点では社会保障費の膨張のなかで財政規律に配慮した予算編成であると評価することができるだろう。財政再建が着実に進んでいることを確認する予算でもある。

資料1. 一般会計の基礎的財政収支



（注）国債費—公債発行額。2014年度までは決算、2015年度は補正後予算、2016年度は当初予算に基づく。

（出所）財務省資料より第一生命経済研究所作成。

資料 2. 2016 年度本予算案のフレーム

(単位:兆円)

歳出		歳入	
基礎的財政収支対象経費	73.1	租税及び印紙収入	57.6
社会保障関係費	32.0	税外収入	4.7
公共事業関係費	6.0	公債金	34.4
文教及び科学振興費	5.4		
防衛費	5.1		
その他	9.5		
地方交付税交付金等	15.3		
国債費	23.6		
計	96.7	計	96.7

(出所) 財務省資料より第一生命経済研究所作成。

○歳出規律への配慮もあり、政策内容はインパクトを欠く

歳出予算の内訳をみていくと、社会保障関係費は 32.0 兆円 (2015 年度予算 : 31.5 兆円) と 0.5 兆円の増加となった。主に薬価、医療材料価格の引き下げ (公定価格と実勢価格との乖離を修正) などにより、0.2 兆円程度の歳出抑制を実施している (なお、診察料等の診療報酬は国費ベース 498 億円の増額)。公共事業関係費は、6.0 兆円と 2015 年度予算から横ばいである¹。これらは、主に防滅災や道路の老朽化対策に充てられる。その他、地方税収の伸びを反映した地方交付税交付金の減額 (2015 : 15.5 兆円→15.3 兆円) もあり、当初予算対比の政策経費の増加幅は当初予算ベースで 0.2 兆円に抑えられている。一定の歳出抑制が効いた予算であると評価することができるだろう。

なお、今回の予算は安倍政権が「一億総活躍社会の実現」「新・三本の矢」を掲げてから初めて組まれる予算であったため、どのような政策が打ち出されるのか注目が集まっていた。中身を見ると、「出生率 1.8」の達成に向けて子育て世帯支援として実施されるのが、企業内保育施設の整備や、主にひとり親世帯に支給される児童扶養手当の倍化、大学生向けの無利子奨学金の新規貸与枠拡大などで、これらの充実策に 2,210 億円 (国費ベース) が追加される。介護離職ゼロを目標に介護世帯に実施される施策は、介護施設やサービスつき高齢者向け住宅の整備、雇用保険の介護休業給付の充実などである。これらの充実分として、460 億円程度が追加される。

資料 3. 一億総活躍関連予算

内容	充実額
第二の矢・「希望出生率 1.8」に向けた政策	+2,210 億円
企業内保育施設の整備	+835 億円
保育士の給与改善 (他の公務員と連動)	+177 億円
児童扶養手当 (ひとり親世帯への手当) の充実	+28 億円
正規雇用への転換促進 (キャリアアップ助成金の拡充)	+189 億円
	など
第三の矢・「介護離職ゼロ」に向けた政策	+460 億円
賃金制度の整備を行った介護事業主の支援	+12 億円
介護休業給付の給付水準引き上げ	+23 億円
	など

(注) いずれも国費ベース。(出所) 財務省資料より第一生命経済研究所作成。

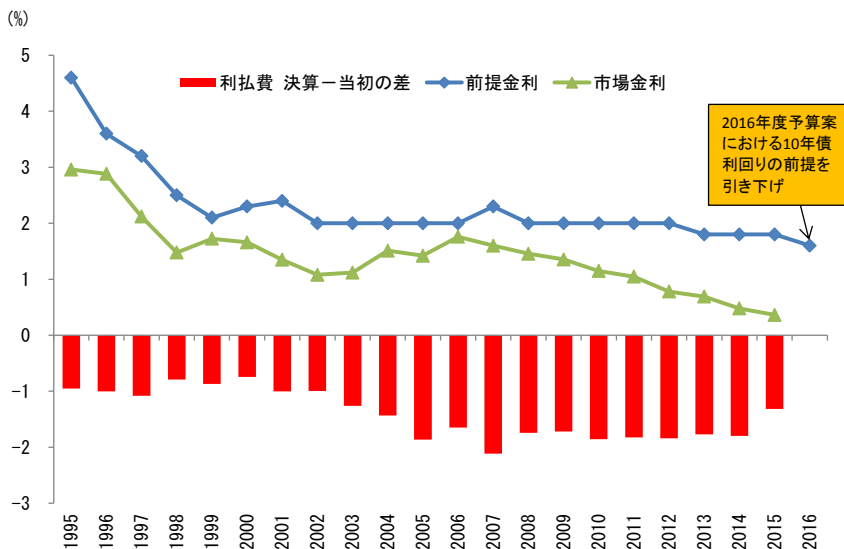
¹ 2015 年度補正予算で公共事業関係費の積み増しが行われたため、実質的には 0.2 兆円程度の増額である (2016 当初+2015 補正、2015 当初+2014 補正の比較)。

歳出の増加抑制や税収の増加に支えられ、財政再建の着実な進展がみられている点は前向きに捉えられるべきだろう。しかし、アベノミクス「新・三本の矢」の目標である「一億総活躍」にむけた施策はインパクトを欠いている印象だ。評価できるポイントを挙げれば、社会保障のニーズが高い層への再分配政策が取り入れられている点であろう。具体的には、これまで育児休業給付（支給率は休業前報酬の67%²）に対して冷遇されていた介護休業給付（現在、休業前報酬の40%）の支給率が67%に統一化される点、児童扶養手当の充実によって保障が手薄なひとり親世帯へのサポート策が打たれる点などである。しかし、充当された多くの予算の使途は保育・介護施設の整備が中心で目新しさはみられず、「一億総活躍に直結する施策」として手当てされた国費予算規模も3,000億円に満たない。財政再建を進める必要性から、大きな政策を打つことが難しくなっており、目玉政策である「一億総活躍」にすら大胆な政策投入が出来ない日本財政の窮状も改めて浮き彫りになった予算といえるだろう。

○2016年度も補正予算編成へ

また、特筆すべき事項として国債費（利払費）の算出に用いられる長期金利の前提値変更が挙げられる。実際の長期金利の低下傾向が続いていることを受けて、2015年度は1.8%と置いていたところを、1.6%に引き下げている。そして、これが16年度の国債費予算を▲0.3兆円押し下げる要因となっている。もっとも、資料4の通り予算編成の前提値として用いられる長期金利は実勢とはかなり高めに設定されており、今回の変更を以ってしてもその乖離が大きい点は変わらない。例年、高めの金利想定を背景に、決算時点では利払費が予算よりも1～2兆円程度の余剰発生が常態化している。2016年度もこの構図は変わらないだろう。

資料4. 予算編成の前提金利・実勢金利と利払費の決算・当初間乖離の推移



(出所) 財務省資料、Thomson Reuters より第一生命経済研究所が作成。

また、2016年度の税収は57.6兆円と見積もられているが、一見するとこれは慎重めの予測にも映る。現時点での2015年度税収見積もりは56.4兆円であり（当初時点54.5兆円+補正時点上振れ額1.9兆円）、2016年度税収は+2.1%（57.6/56.4兆円）の伸びが見込まれていることになる。一方で、この税収算定の前提となっている2016年度の経済成長率は名目+3.1%である（政府の経済見通し）。政府は、中長期推計の

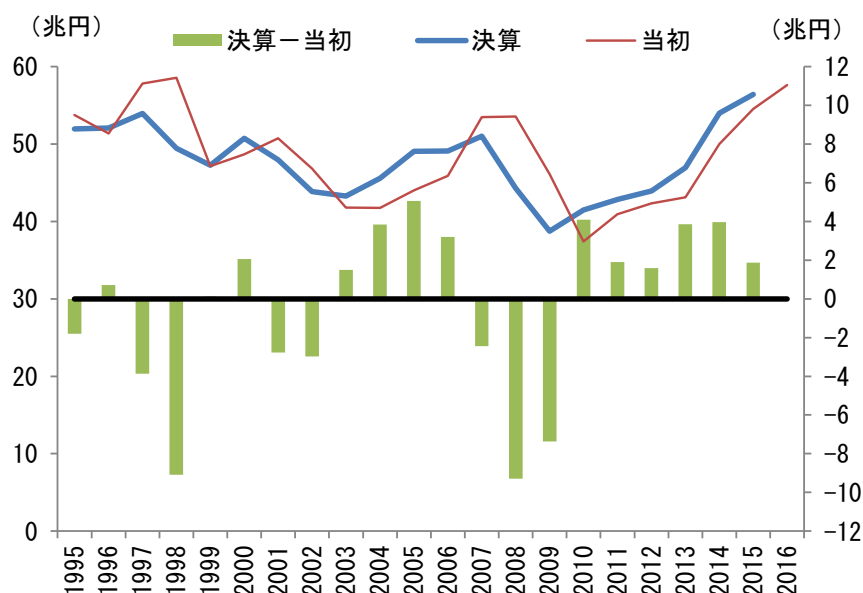
² 休業後当初6ヶ月。その後は50%。

際には長期の税収弾性値（名目GDPの伸び率が税収伸び率への感応度）を「1.1」程度としている。今回の税収伸び率とGDP伸び率の比率を取ると、「0.68」（=2.1/3.1）と長期弾性値と比較しても低い。予算編成の際の税収見積もりは、税制改正などの要因等も加えた個別税収の積み上げによって行われる³。このため、単純にGDP伸び率と税収伸び率が完全にリンクするわけではない。今回の場合、2016年度における企業間配当の還付金等の要因を考慮した結果、伸び率を慎重に抑えた模様である。

ただそうした要因を考慮しても、実際の2016年度税収はもう一段上振れする可能性が高いと考えられる。現時点での税収の月次徴収率を勘案すると、決算時点で2015年度の税収がもう一段上振れする公算が大きいからだ。16年度の税収見込みは、現在15年度の補正後時点をもとに伸び率を乗じて作成されており、この土台が上げれば2016年度の見込み税収も底上げされる。

こうした利払費の下振れ額や税収入の上振れ額は、例年補正予算の財源として充当される。筆者の過去のレポートでも何度か述べているが、翌年度に消費税率の引き上げを控えていることもあり、16年度には多額の補正予算が編成される可能性がある。今回も、これらの浮いた額はその財源として充当されることになりそうだ。

資料5. 税収の推移（当初時点、決算時点、その乖離）



（注）2015年度の決算値のみ、補正後予算の値。（出所）財務省資料より第一生命経済研究所作成。

以上

³ 財務省「租税及び印紙収入予算の説明」にて、税収予算の算出方法の概要が公表されている。